

▲▼▲ 5月17日クリエイティブサロン開催報告 ▲▼▲

講演会： デザインと東西哲学

講演者： 浅井由剛 カラーコード代表取締役



美術大学卒業後3年間の世界気まま旅の中で感じたひとつが洋の東西で物の見方が異なることであり、特に東西の間にある中近東でその印象を強くした。そのひとつは絵の持つコミュニケーション力であり、ひとつは表現の仕方に定性的な違いがあることである。デザインはラテン語のデザイナー（計画を記号に表す）から由来しているが、中に含む印（シグナム）の意味が主張され、デザインは、サイン（印）から脱するという意に変化していった。西洋では、目に見える物は造物主の神の技であったが、人間が人間の都合の良いモノを作るとなると、求めるコンセプトは形而上的にはプラトンのいう真理（アイデア）の表現であるが、形而下のモノ作りになるテクニックやメカニクスは、神の印を破壊する行為と考えられ詐術とも呼ばれた。この起源からも見られるように、西洋のデザイン観は真理と、それを求める形づくりという二元論が一般となった。然るに、東洋哲学では密教に代表されるように、真理は己の中にあり、それを引き出すのが東洋的デザイン心理である。仏師は、木の中に在す仏を削り出すのが自分の仕事という方が多いが、東洋的思考方を示す一例である。このように記号的で論理的な西洋哲学と、表徴的で情緒的な東洋哲学の間にいる日本では、その両面を融合した論理的ではあるが情緒性を具備したデザインが可能で、日本風の特徴となっている。これからの日本のデザインは、スタイルだけの「和風」から、西洋的な「より良い社会」を標榜できるデザイン、形だけのデザインから、美の本質、心まで感じさせるデザインに新しい価値が生まれるだろう。企業のアイデンティティにもこの日本的厚みが表現されると世界的にも日本風魅力をアピールすることが出来る。会場からは質問が相次いだ。地域活性、企業のアイデンティティ・デザインなどで、注文主とのレベル差の克服についての質問に対し、浅井氏は、ただ単に仕様を聴くだけでなく、相手の動機、関心事を傾聴し、代案を重ねることで共感できるデザインに落とし込んで行くという現実的経験を示してくれた。

（記事：理事：田村新吾）

ワークショップ： イノベーションとデザイン思考

講演者：石井力重 アイデアプラント代表、日本創造学会会員



アイデアプラント代表石井力重氏による「アイデアワークショップ」は2時間40分の持ち時間を忘れ、参加者全員が盛り上がった最高のワークショップであった。石井氏と相談し決めた課題は「自然と健康が増進される衣服（靴、帽子を含む）のアイデア」である。この課題に対して5分交代のペアブレストである「スピードストーミング」を行った。参加者が二重のループのどこかに入り、計5回のペア交代を行ったので、一気に参加者の親密度が上がった。アイデアの良い所に焦点をあててコメントする「プレイズ・ファースト」精神が心地よかった。ついであのアイデア面白かったなというところを自分のアイデアにこだわらず「アイデアスケッチ」する。更に良案を抽出するために衆目評価法である「ハイライト法」を用いる。最後に出てきたアイデアの上位案・情熱案を紹介する「アイデア・レビュー」のところまで今回は行った。40人の参加者が一人最低3件のスケッチを提案したので、約120件の興味深いアイデアが図付きで提案された。各人が気に入ったアイデアのところへ移動しチームを形成し、「発展ブレスト」といった更なる良案の発展プロセスを行った。最終的なアイデアは今すぐにも商品化できそうなモノやちょっとした技術革新を要するモノまで混在していたが、参加者の満足そうな顔やうれしそうな顔を拝見し、このワークショップの企画者の一人として石井氏は日本最高の若手アイデアソンであることを確信した時間帯であった。

（記事：評議員長 國藤 進）